

■ 2023年度一般選抜出題一覧

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
一般前期/ A日程 1月28日 問題▶P.12~	【Ⅰ】	会話文	会話の流れに適合する文を空所に補充
	【Ⅱ】	語彙・文法	単語・熟語・文法（比較表現、前置詞など）
	【Ⅲ】	長文読解	スマホ所持への賛否を題材とする電子メール中の空所に適合する語（句）を補充
	【Ⅳ】	語整序	会話文の流れに合う発言内容となるように単語を並べ替え
	【Ⅴ】	長文読解	オーストラリアの少数言語をテーマとする英文についての英問英答
	【Ⅵ】	長文読解	パレイドリア現象をテーマとする英文についての英問英答
一般前期/ B日程 1月29日 問題▶P.43~	【Ⅰ】	会話文	会話の流れに適合する文を空所に補充
	【Ⅱ】	語彙・文法	単語・熟語・文法（接続詞、否定表現など）
	【Ⅲ】	長文読解	アジアゾウをテーマとする文章中の空所に適合する語（句）を補充
	【Ⅳ】	語整序	会話文の流れに合う発言内容となるように単語を並べ替え
	【Ⅴ】	長文読解	アーバーデイ（植樹祭）をテーマとする英文についての英問英答
	【Ⅵ】	長文読解	海洋哺乳類の睡眠をテーマとする英文についての英問英答

傾向 ◀ 会話文・文法・長文読解など幅広く出題 難易度は標準だが問題量は多め

一般前期入試A日程B日程は、いずれも大問6問構成である。すべてマークシート式の出題で、マーク数は45個で統一されている。各年度の問題構成も基本的には同じだが、出題形式には若干の変更があり、2023年度は【Ⅰ】会話文完成問題、【Ⅱ】語彙・文法問題、【Ⅲ】長文問題、【Ⅳ】語整序英作文問題、【Ⅴ】【Ⅵ】長文読解となった。2022年度からの変更点として、【Ⅲ】の空所補充の題材が会話から短めの文章になったこと、【Ⅳ】の語整序英作文問題が、与えら

れた日本語の意味を表す英文を完成させる形式から、会話文中の発言を完成させる形式になったことが特筆される。いずれの日程も、難易度は標準的で、高校で学習する内容を踏まえた基本的な内容の設問が大半だが、試験時間に対して問題数が比較的多く、スピードが求められる。会話文問題や語彙・文法問題は設問数が多く、配点が大きいので取りこぼしがないよう得点したい。その上で、長文問題に時間的余裕をもって取り組めるかがカギとなる。

対策 ◀ 基本的な単語・文法知識の定着と読解スピードの向上

語彙・文法分野は、大問として1問出題される上に、長文読解や英作文の基礎となるものであるから、確実にマスターして臨みたい。語彙は、言い換え、同義語、熟語を正確に覚えておく必要がある。文法は、時制、仮定法、準動詞、関係詞、接続詞、前置詞、比較などの重要事項を文法の問題集などを使って確認しておきたい。

会話文問題では会話文特有の表現を身に付けるとともに、回答から質問を推測する練習をしておくことが有効な対策となるだろう。

整序英作文対策では、熟語や構文の知識を定着させて、まとまった表現を組み立てる力が必要である。

長文読解では、速読力をつけるとともに、細部にも気を配る精読力をつけることが重要である。選択肢では、本文中の

一文の言い換えが問われることが多いが、段落や本文全体の理解が問われることもある。

長文読解対策としては、可能な限り多くの英文を読んで、選択肢を的確に判断する能力を養うことが必要不可欠だが、その前提として、小手先のテクニックに頼るのではなく、単語・熟語や文法・構文の知識をしっかりと身につけておきたい。英語が日本語と体系が大きく異なる言語である以上、こうした基礎的な知識があって初めて本格的に読解や作文もこなせるようになるのである。

長文に苦手意識がある受験生へのアドバイスとして、まずは単語・熟語の暗記と並行して、文法の学習を進め、体系的な文法をマスターした上で、易し目の英文を多読することを勧めたい。

国語の傾向と対策

■ 2023年度一般選拔出題一覧

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
一般前期/ A日程 1月28日 問題▶P.23～	【Ⅰ】	評論	宮田裕章『共鳴する未来 データ革命で生み出すこれからの世界』 漢字、語句の意味、空欄補充、脱文挿入、内容説明、内容合致
	【Ⅱ】	評論	合田正人「私という異郷」 理由説明、内容説明、空欄補充、語句の意味、脱文挿入、内容合致
一般前期/ B日程 1月29日 問題▶P.54～	【Ⅰ】	評論	好井裕明『違和感から始まる社会学 日常性のフィールドワークへの招待』 漢字、理由説明、語句の意味、空欄補充、脱文挿入、内容説明、内容合致
	【Ⅱ】	随想	荒俣宏『喰らう読書術 一番おもしろい本の読み方』 語句の意味、内容説明、空欄補充、理由説明、脱文挿入、文学史、内容合致

傾向 ◀ すべて現代文からの出題 マークセンス 5 択の選択問題 難易度は標準レベル

① 出題形式

3年とも現代文からの出題で、大問が2問、解答数は合計30問程度である。形式は5つの選択肢から正答を選ぶマークシート式の選択問題である。

読解問題としては、内容合致問題、傍線部の内容説明問題、理由説明問題、脱文挿入の問題などさまざまな形式の問題が出題されている。

② 出題内容

3年とも課題文は、評論2題、または評論と随想から1題ずつ出題されている。課題文はそれほど長くはなく、4～5ページでいずれも比較的読みやすい。漢字はどの年度も大問Ⅰで5題出題されており、どれも傍線部の漢字と同じ漢字を含む熟語を選ぶ問題ばかりであった。語句の意味を問う問題は、文脈の中で該当の語句が持つ意味を問うものであった。空欄

補充問題は、接続詞を選ぶもの、前後の内容を読み取ってその内容に合致する語句を選ぶもの、選択肢に挙げられている熟語などの意味をつかんで、文脈にもっとも沿う語句を選ぶもの、と多岐にわたる。

③ 難易度

どの問題も標準レベルの問題である。漢字は正確に覚えていなければ間違えやすい同音異義語も出題されているが、基本的な知識が身につけていれば十分に対応できるものばかりである。語句の意味を問う問題も日常生活の中で目にする語句がほとんどである。ただ、文脈に照らして正しい意味を選ぶ必要があるため、その点は注意が必要である。内容合致問題や傍線部内容説明問題ではやや難しいものも見られたが、指示語の指す内容を押さえつつ、課題文を丁寧に読み進めていけば十分に対応可能である。

対策 ◀ 漢字、語句の知識を確かなものにして、文章を丁寧に読む習慣をつけよう

① 漢字、語句の学習は徹底的に

先にも挙げたように、漢字、語句の意味の問題はそれほど難しくないので、ぜひ得点源にしてほしい。漢字は同音の漢字を含む熟語が多く出題されているので、その漢字の持つ意味(字義)を正しくつかんでおくことが必要である。語句の意味を問う問題でも、なんとなく知っているが正確な意味は理解していない、といった語句が多く出題されているので、日頃から気になった語句については、辞書で正しい字や意味を確かめる習慣をつけていこう。

② まずメモを取りながら丁寧に読み進めよう

課題文を読みながら傍線部のある所に当たると、ついついその前後だけで判断して答えをみつけたくなりがちであるが、ここはぐっと我慢をせず全体の内容をじっくり読もう。全体の内容を把握したうえでその傍線部がどういうことを指

しているか考えていくとよい。傍線部説明問題や内容合致問題は、明らかに違うものを省いていくとともに、課題文中では触れられていないものも省いていかなければならないので、丁寧に読み進める練習をすることが必要である。

③ 設問の意図を正しくみ取る

設問中で課題文を読んだ生徒の会話文等が示され、その中の空欄を埋める問題も見られる。設問が何を聞いているのかその意図を正しく掴んで対応していくことが求められる。

④ 過去問をこなそう

ここ3年間、出題形式はほぼ変わっていないので、入試本番で落ち着いて問題に向かうためにも、過去問をしっかりと解いてみよう。制限時間を計って、時間配分も考えていけるとよいだろう。

2023年度一般選抜出題一覧

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
一般前期／ A日程 1月28日 問題▶P.24～	第1問	古代西洋史	古代ローマ史
	第2問	中世東洋史	イスラーム教の成立と拡大
	第3問	近世西洋史	17～18世紀のヨーロッパ諸国史
	第4問	近代東洋史	清末から中華民国成立期の中国
一般前期／ B日程 1月29日 問題▶P.55～	第1問	古代東洋史	隋・唐時代の中国
	第2問	中世西洋史	中世西ヨーロッパ世界におけるローマ＝カトリック教会の歴史
	第3問	中世東洋史	13世紀～20世紀前半のモンゴル史
	第4問	近代西洋史	帝国主義時代の欧米諸国の動向

傾向 ◀ 古代から近代史までの政治史がメインで出題される

入学試験問題は、大問4つで小問数は合計40問、大問1つあたり10の小問で構成されており、解答形式はマークシート式である。また、西洋史と東洋史がバランスよく出題されるうえに、時代も古代史から近代史まで幅広く出題されており、こうした傾向は2021年・2022年度における本日程の入学試験問題から変更点はなかった。選択肢の一部に、戦後史を含む現代史の語句があるものの、全体的に戦後史を主軸とする出題はほぼみられない。ただし2021年度A日程においては戦後史からの出題が4問みられたため、教科書の内容を幅広く理解する必要があるだろう。

出題分野に関しては、約8割が政治史からの出題で、残りの2割が文化史や経済史、および社会史などからの出題となっており、大問それぞれで出題される時代はほぼ固定されていることが多い。出題方法においては、4択形式の語句選択問題と正誤文選択問題が中心となっており、2023年度の入学試験問題では、語句選択問題の割合が約7割、正誤文選択問題の割合が約2割、その他に地図選択問題や年代配列問題が3問程度の出題となっており、こうした傾向も2021年

度・2022年度の入学試験問題と変化はなかった。語句選択問題については、語句一つを選択させる問題だけでなく、語句の組合せを選択するなどの出題もみられ、政治史と経済史に関する語句を組合せて選択させるなど、受験生の理解度を試す出題上の工夫がみられる。また、語句だけでなく説明文を選択させる出題や、図版を用いて思考力や判断力を試す出題もみられるほか、正誤文選択問題については、4択形式の出題や2文正誤判定形式の出題がみられる。

2023年度の入学試験問題をA日程・B日程と合わせて出題内容についてみていくと、語句選択問題で「ヒジュラ」「羈縻政策」などの重要な基本用語や、「レピドゥス・アントニウス」などの基本用語の組合せが出題されており、正誤文選択問題では「イギリスで起こった革命」「第一次世界大戦下の動きや戦後の体制」など基礎的な用語をその説明や時代背景などを丁寧に理解していないと解答できないような出題がみられた。

全体的な難易度としては、教科書の理解をバランスよく問う標準的な出題といえる。

対策 ◀ 問題演習をくり返し行って幅広い出題に慣れること！

本学の入学試験問題の特徴を踏まえると、古代から近代までの西洋史・東洋史を中心に学習し、教科書に記述されている基礎的な語句を記憶する。そして、市販の問題演習の参考書などを通して、知識が定着しているかを常に確認する習慣をつける必要がある。これらの内容を踏まえて、以下、具体的な対策について紹介する。

1 時代や地域を万遍なく学習する

まずは通史学習においては教科書を中心に、高校の授業などで因果関係や時代背景を理解し、重要語句をサブノートなどにまとめ、地図問題への対策として資料集を用いて学習範囲の内容を視覚的に理解しよう。その際に、わからない語句が登場した場合は、『世界史用語集』（山川出版社）を使用して理解を深めると良いだろう。目標としては、最終的に教科書のある程度読んで理解できるようになるレベルをめざしたい。教科書に書かれている内容を理解できれば、どのような出題であっても十分な合格点に達することができる。

2 基礎的な語句を覚える

基礎的な語句を効率よく覚える習慣を早い段階で確立する必要がある。覚え方というのは個々人の好みもあると思うが、最終的に語句を覚えるという目標は変わらないだろう。教科

書、高校の授業で配布されたプリント、高校の先生の板書などをベースに覚えるほかに、市販の一問一答集を使用するのも効果的だと言える。また、語句だけでなくその語句を限定するための説明にも目を通すようにしよう。本学の入学試験問題は、重要語句同士の組合せ問題や、語句とその説明を用いた正誤文選択問題が多いため、効果的な対策になると言える。

3 問題演習による知識の定着化をめざす

語句を覚えたと思ったら、実際に問題演習を通じて実際に知識が定着しているかを確認しよう。市販の問題集などを使用し、正誤文判定問題を解くときは必ず誤文の根拠を明示すると良いだろう。答え合わせの際に、誤文の根拠があったかを確認しよう。こうすることによって、勘違いした知識や抜けていた知識を確認することができるだろう。当然、語句選択（記述）問題を間違えた場合は、該当範囲の覚え直しをすることも忘れないようにしよう。また、同偏差値帯の大学の過去問が効果的な対策になると思われる。問題演習を通じて、自分に足りない知識を明確にし、それを補うことが本学の入学試験問題における合格点にもっとも近づける対策と言える。

日本史の傾向と対策

■ 2023年度一般選拔出題一覧

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
一般前期／ A日程 1月28日 問題▶P.29～	第1問	3世紀から8世紀までの文化と外交	古墳文化（古墳名、古墳文化前期・中期の特徴）、倭の五王、遣隋使、飛鳥文化、天平文化（僧侶、鎮護国家、悲田院、道鏡、正倉院の宝物）
	第2問	14世紀の政治と江戸時代の三大改革	建武の新政、南北朝の動乱、室町時代の守護、室町幕府の機構、享保の改革、寛政の改革（旧里帰農令・人足寄場）、天保の改革
	第3問	明治時代初期の政治と大正時代の外交	大久保利通、自由民権運動、士族の反乱、私擬憲法、政党、ヴェルサイユ条約、ワシントン会議（全権、九カ国条約、ワシントン海軍軍縮条約）、国際連盟、二十一カ条の要求
	第4問	大日本帝国憲法と日本国憲法	大日本帝国憲法（ロエスレル、枢密院、グナイスト）、地方制度、統帥権干犯、条約改正、日本国憲法、占領政策、戦後の政党、民法、教育制度
一般前期／ B日程 1月29日 問題▶P.61～	第1問	奈良時代から摂関政治期まで	藤原種継暗殺事件、檢非違使、坂上田村麻呂、嵯峨天皇の治世、菅原道真、安和の変、『日本三代実録』、乾元大宝、摂関政治、10世紀の国際情勢
	第2問	室町時代・江戸時代の文化	室町文化（夢窓疎石、書院造、『建武年中行事』、五山制度、枯山水、茶道と華道）、江戸文化（洒落本、閑谷学校、寛政の改革、『采覧異言』、蘭学、弘道館）
	第3問	明治初期の財政と大正時代の労働・社会運動	西南戦争、松方正義、明治十四年の政変、三井、日本鉄道会社、1880年代のできごと、鈴木文治、新婦人協会、社会主義運動、与謝野晶子、治安警察法、水平社宣言
	第4問	日中戦争以降の状況と戦後の改革	近衛文磨、配給制、新体制運動、南部仏印、学童疎開、五大改革指令、金融緊急措置令、農地改革、昭和電工事件、ドッジ＝ライン、日ソ共同宣言

傾向 ◀ 頻出は古代！近現代！そして文化史！

どの年度においても大問1 原始・古代、大問2 中世・近世、大問3 と大問4 が近現代の構成である。2021年度の大問2 は鎌倉時代のみ（A日程）、あるいは近世のみ（B日程）という出題であったが、2022年度以降は中世から5問、近世から5問となっている。大問1 は奈良時代や平安時代が多い傾向にあるが、奈良時代以前の出題もある。

分野としては政治史が全体の5割前後を占める。次に目立つのが文化史である。全体の2割前後を占める。残りの2割前後で外交史か経済史が出題されている。

形式は空所補充や選択式が全体の7割弱を占める。残り3割が正文（もしくは誤文）を選択する問題で、このほか年代順に並び替える問題が1題出題されている。

対策 ◀ 基礎（一問一答）で落とさず、難問で差をつける

時代別で言えば、まず原始・古代をマスターすること。原始・古代から10問出題されていて、それでいて範囲はそれほど広くはない。次に近現代をマスターしてもらいたい。こちらは量が多いのだが、20問はこの範囲からの出題なのでしっかり身につけておく必要がある。戦後史も5問程度出される可能性がある。どちらかと言えば占領期（サンフランシスコ平和条約発効まで）の出題頻度が高い傾向にあるので、ここまではしっかり学習しておこう。

形式面で言うと、選択式の多さから、一問一答的な問題を

答えられるようにしておきたい。これを解けるようになると、日本史に対する自信にもつながる。ただ選択式の7割をすべて取れる受験生はいないので、正文（誤文）選択を取れるように励もう。正文（誤文）選択を取れるようにするためにはできごとを「いつ・どこで・誰が・何をした」と正確に把握する必要がある。また「いつ」を押さえておけば並び替え問題にも対応できる。

最後に、文化史は早めに。文化史こそ時間をかければ得点を取りやすいので、自発的に学習を進めてほしい。

■ 2023年度一般選抜出題一覧

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
一般前期／ A日程 1月28日 問題▶P.34～	第1問	政党と圧力団体	政党の歴史、圧力団体とは、55年体制、戦後の歴代内閣、政治資金規正法
	第2問	各国の政治制度	イギリス・アメリカ・フランス・ドイツ・ロシア・中国などの政治制度
	第3問	通貨と金融	金本位制度と管理通貨制度、企業の資金調達、信用創造、日本銀行の役割、金融政策、日本版ビッグバン、金融の自由化
	第4問	労働問題	ワークシェアリング、労働三法・労働基本権、日本の賃金、障がい者雇用、男女雇用機会均等法
一般前期／ B日程 1月29日 問題▶P.66～	第1問	民主政治の基本原則	国家と主権、社会契約説、三権分立、歴史的権利文書、法の支配と法治主義、主な人権条約
	第2問	選挙制度	参政権、選挙区の種類、日本における選挙制度、近年の法改正、ドント式の計算、選挙違反への罰則
	第3問	消費者問題	消費者問題、消費者契約、依存効果など、様々な消費者保護立法と保護行政、悪徳商法、消費者の4つの権利、製造物責任法、消費者契約法
	第4問	国際経済	地域的経済統合、GATTとWTO、IMFなど、ブレトン・ウッズ体制、ブラザ合意、ODA、リーマン・ショック

傾向 ◀ 「標準的」なレベルで万遍なく出題されるが、高度な知識・理解を要する場合あり

1 出題形式

どの年度も、A日程・B日程ともに小問10問からなる大問が4つ（計40問）出題されており、解答方式は全問マークシート式であった。設問形式は、政治分野は用語を選ぶ選択問題、文章中の空所補充、文章の正誤を判定する問題の3つが中心で、経済分野はそこに1問程度、計算問題が入ってくることもある。

2 出題内容

ここ3年間の出題範囲で見ると、国民所得からの出題はなかったが、それ以外の単元からは、万遍なく出題されている。ただしこれは、国民所得が出題されないという意味ではない。本学は毎年、A日程B日程ともに「特定範囲に偏らない出題」でバランスよく問題を作成していることを考えれば、当然国民所得も「そろそろ出題される」可能性を考えて、しっかり準備しておく必要がある。

次に、ここ3年間で2回以上出題されている内容も複数あったので、記しておく。それは「55年体制以降の政党名と歴代内閣」「政治資金規正法」「信用創造計算」「比較生産

費説」「国際収支」などである。これらの中では、特に最後の3つ（信用創造計算、比較生産費説、国際収支）が難しく、ていねいに学ばないと正解にたどりつけない発展的な内容なので、時間をかけて勉強することが求められる。また、同じテーマではないが、カタカナ語、アルファベットの略称（国際機関の名称など）なども頻繁に出題されているため、注意を要する。

最後に、データやグラフを読み取る問題は、どの年も40問中1～2問程度と、政治経済の入試問題としては少ない印象である。また、時事問題の出題も、毎年0～1問と、非常に少ない。

3 難易度

総合的にいうと「標準的」。どの年のどの日程も、問題の作りは素直でとっつきやすく、「質問の意味そのものがわからない」類の問題は皆無である。問題の難しさも、全体的には基本学習で対処できるものが多い。ただし、どの年もすべてが易しいわけではなく、3割程度の問題では、高度な知識や完全な内容理解が求められる。

対策 ◀ 一問一答（用語集）・旧センター試験の過去問・資料集を使い、基礎の徹底に努めたい

1 まずは用語対策

基礎的な用語対策として、まず一問一答系の問題集での学習を進めるのが効果的である。一問一答は、ひねった出題をする大学対策には向かないが、素直な定番の出題形式の大学対策にはかなり有効である。

2 旧センター試験の過去問も使おう

文の正誤を問うような内容理解問題には、旧センター試験の過去問で対策するのが効果的である。共通テストにかわる

前のセンター試験の四択は、素直な正誤判定問題を出題する大学対策にかなり役立つ。

3 資料集も使ってみよう

データ系の出題が少ない本学だが、資料集からは、信用創造や比較生産費説、国際収支、戦後の政党史や歴代内閣などが、すべて学べる。政経で受験する以上、資料集は時間さえあれば見る習慣をつけておきたい。

数学 I の傾向と対策

■ 2023年度一般選抜出題一覧

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
一般前期 / A日程 1月28日 問題▶P.40~	【Ⅰ】	小問集合	式の値、集合、必要十分条件
	【Ⅱ】	2次関数	平行移動、定義域での最小値、グラフの位置
	【Ⅲ】	三角比と図形	円に内接する四角形の性質、四角形の面積
	【Ⅳ】	データの分析	中央値、相関係数、データの変換による変化
一般前期 / B日程 1月29日 問題▶P.72~	【Ⅰ】	小問集合	無理数、絶対値を含む1次不等式、集合、必要十分条件
	【Ⅱ】	2次関数	2つの放物線のグラフ、共有点の判別、2つの2次不等式の共通解
	【Ⅲ】	三角比と図形	正四角錐、外接球の半径、2面のなす角、面への垂線の長さ
	【Ⅳ】	データの分析	共分散、相関係数、データの追加による変化、箱ひげ図の読み取り

傾向 ◀ 数学 I の全範囲から幅広く出題される

大問4問の構成内容は毎年同じである。このところ、大問の【Ⅱ】または【Ⅲ】で共通テストのような対話形式の問題文が見られる。

難易度は大半は基本から標準レベルである。中には少し難しい、かなり難しい問題もあり、三角比やデータの分析の後半によく見られる。

小問集合：絶対値のついたものが頻出である。

集合は補集合、和集合、積集合など、ベン図を駆使できなければならない。

必要十分条件はよく考えなければならないものもあり、条件を的確にとらえる必要がある。

2次関数：平行移動、最大最小、解の条件などが問われるが、ほぼ基本から標準問題である。

三角比と図形：正弦定理、余弦定理、面積計算など基本問題が多い。後半に難しい設問があることがある。

2023年のB日程では立体が出題された。やりにくさを感じた受験生も多いだろう。

データの分析：四分位範囲、箱ひげ図・散布図の読み取りなどは標準的だが、相関係数の計算はやや面倒。

データの変換、データの追加後の変化を問う問題などは練習していないと難しい。

試験時間60分に対し問題の量はやや多く、要領よく易しい問題を終えることが重要だ。

対策 ◀ 難問をこなすのではなく、基本から標準レベルの問題を確実に解く練習をしておきたい

頻出分野を重点的にやっておくこと。

小問集合の無理数の計算、1次不等式、集合、必要十分条件は確実にしておきたい。

2次関数では最大最小問題を徹底し、グラフや解の正負の問題を演習すること。

三角比では、正弦定理、余弦定理、面積の計算の問題を十分に練習すること。

データの分析では、箱ひげ図や散布図の読み取りに慣れておくこと、分散、相関係数の計算の要領を身に付けておくこ

とが必要である。

選択肢を選ぶ問題なので、その練習には過去問演習が欠かせない。時間配分を考えながら過去問をやっておくことは有効である。難問に深入りはせず、易しいものを確実に解いていくことを優先するが、選択肢なので難問の正解を推定することも大事である。また、計算ミスは正解の選択肢が無くなったりするので日頃から気を付けたい。ミスをしたら必ずやりなおし、何を間違えたのかを確認することで、同じミスをしないよう練習しておこう。